

## 優秀賞（国土交通事務次官賞） 作文（中学生）の部

『身近で土砂災害を目的の当たりにして』

岐阜県可児市立広陵中学校 二年 山本 光輝

毎年六月や九月になると、梅雨前線や台風の影響で全国に大量の雨をもたらす。その雨で土地がゆるみ、土砂災害を引きおこす。

僕の身近な地域でも一昨年集中豪雨が数人が犠牲となった。その日は夕方から突然大雨が降り、夜には僕の家の近くの川も氾濫し始めていた。とても不安だった。

翌日ニュースを見てとても驚いた。川の近くにある駐車場に止められていたトラックは全て流され、道路は冠水していた。別の地区では、山が崩れて家が何軒もつぶされてしまっていた。あんなに大きくて重いトラックを数百m先の場所まで流したり、普段は、何ともない山でも土砂崩れにより、家を巻き込んでしまうなんて改めて土砂災害の恐ろしさや、この事を忘れてはいけないと思った。

僕は、去年の夏休み、一昨年の土砂災害について調べてみようと思い、自由研究として調べてまとめてみた。調べるだけでなく土砂災害のあった場所にも実際に行ってみた。災害から一年以上経っている山には崩れた跡、がけの下に大量に積もった土、災害で巻き込まれた家の所には、雑草が生え空地になっていた。今にでも山が崩れてきそうなくらい悲惨な状態だった。

災害のあった地域の人に尋ねてみると、  
「まさかあの山が崩れるなんて思ってもみなかった。今でも毎年大雨が降ると、災害を思い出ししてしまい胸が痛みます。」  
と話してくれた。

あの災害の後、毎年、大雨で川の警戒水域を越えると、市の車や、消防車がパトロールを行っている。土砂災害を防ぐ事は難しいと思う。

でも、日頃から起こるかもしれないと想定したり、防災機器のメンテナンスをしたりしておけば防げると思う。想定するという事はとても大切だと思う。

だが東日本大震災は、想定をはるかに越えて想定外の津波が押し寄せた。海から離れている三階のビルの屋上までもが津波に飲まれ今までにないような状況だった。

被害に遭った人達の中には、

「さすがにここまで波が来るなんてありえない。被害は海岸沿いだけだと思った。」  
と話す姿がニュースで報道されていた事が今でも印象に残っている。

想定も大切だと言ったけれど、何が起こるかわからない自然災害は、想定以上の事を考えておく方がいいと思う。

避難訓練でも校長先生が、

「今までの想定にとらわれないようにしよう。」  
とおっしゃっていた。

想定にとらわれない事も土砂災害で命を守る大切な事の一つだと思う。

このような災害を防ぐためにも、なぜこのような災害が起こったか原因を考える事をしなければならぬ。可児市の豪雨災害の時の場合、僕が考える原因は二つある。

一つ目として挙げるのは、「山」実際に災害の起きた山では、森林伐採されていて土砂が流れやすくなっていたのが原因として考えられる。

二つ目は、「市の対策」だと思う。長年、あのような災害がなかったためしっかりとした対策がとられていなかった事だ。

例えば、普通なら道路が冠水した時、防災のランプが作動するはずなのに、災害の日は作動しなかったため、何台もの車が道路で立ち往生してしまったのだ。その他にも砂防ダムの建設も早めにしてあげれば良かったと思うし、道路脇にある防災マップもさびびたりして見にくい所もあった。今では、川の警戒水域を越えたりするとすぐに市の車が来てパトロールをしている。また、道路にも緊急時の標示板が付けられているのをよく見かける。

僕の住んでいる地区には田畑があり大雨が降ると、傘をさして農家の人達が、稲や野菜の様子を見に来る。稲や野菜を大切にしている気持ちには、わかるけれど、途中で土砂災害に遭って、命を失うこともあるので、心配でたまらない。できれば外出しないでほしいいつも思う。

災害に対処するためには、地域との連携が必要だと思う。日ごろから地域の人々との交流をして、お年寄りや体の不自由な人にも気配りをして、犠牲者が出ないようにしたいと思った。また、身近な地域で起こった災害を、決して忘れてはいけないと思った。